

山銀金渡佐 跡遺 暫定リスト単独掲載

文化庁検討 「石見統合」見直し

国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界文化遺産登録を目指す佐渡金山遺跡について、登録の前提となる国の暫定リ

ストに単独掲載する方針を文化庁側が検討していることが3日、分かった。文化庁は従来、既に世界遺産に登録されている石

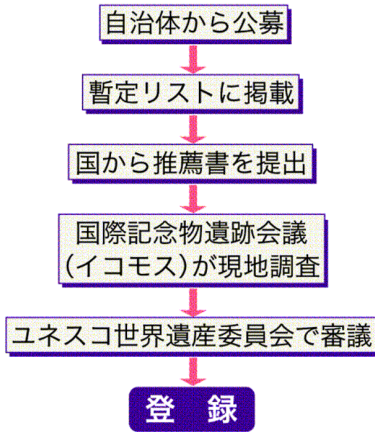
見金山遺跡(鳥根県)との統合を暫定リスト掲載の条件としていたが、それを見直す形となる。今月中旬にも開かれる文化審議会の特別委員会で審議し、決定する見通し。

関係者は「石見と文化庁との交渉が行き詰まり、足踏み状態が続いていた。暫定リスト掲載で、世界遺産への道が具体的に見えてくる」と期待している。

また暫定リストに登録された場合でも、世界遺産登録に向けた構成資産の調査、保護などに数年間の必要とみられる。石見のケースでは、2001年の暫定リスト掲載から世界遺産登録まで6年を要した。

佐渡金山遺跡は06年、県と佐渡市が暫定リスト提案書(金と銀の島佐渡)として文化庁に提出(07年に再提案)。近世から近代の国内財政を支えた金山遺跡と位置付け、相川金山などの金山遺跡を核として世界的な価値を訴えてき

世界文化遺産登録の流れ



た、ユネスコは遺産の偏りを避けるため、同種の遺跡については1件の登録という方針を取っている。国内の金山遺跡では、石見金山遺跡が2007年に世界遺産登録をされているため、別の関係者からは「暫定

リストに載っても、(1992年に掲載されたままの)彦根城と同様、万年候補となりかねない」との懸念も出ている。

また暫定リストに登録された場合でも、世界遺産登録に向けた構成資産の調査、保護などに数年間の必要とみられる。石見のケースでは、2001年の暫定リスト掲載から世界遺産登録まで6年を要した。

佐渡金山遺跡は06年、県と佐渡市が暫定リスト提案書(金と銀の島佐渡)として文化庁に提出(07年に再提案)。近世から近代の国内財政を支えた金山遺跡と位置付け、相川金山などの金山遺跡を核として世界的な価値を訴えてき

た。文化庁は08年9月、佐渡金山遺跡を「石見と山銀金渡佐」の統合・拡大を前提に、暫定リスト掲載が適当と判断。しかし、石見金山遺跡のある鳥根県などで反発が強く、統合の交渉が進んでいなかった。単独での暫定リスト掲載について、佐渡市の高野宏一郎市長は「近々やる委員会で決めること」と答えるにとどめた。